

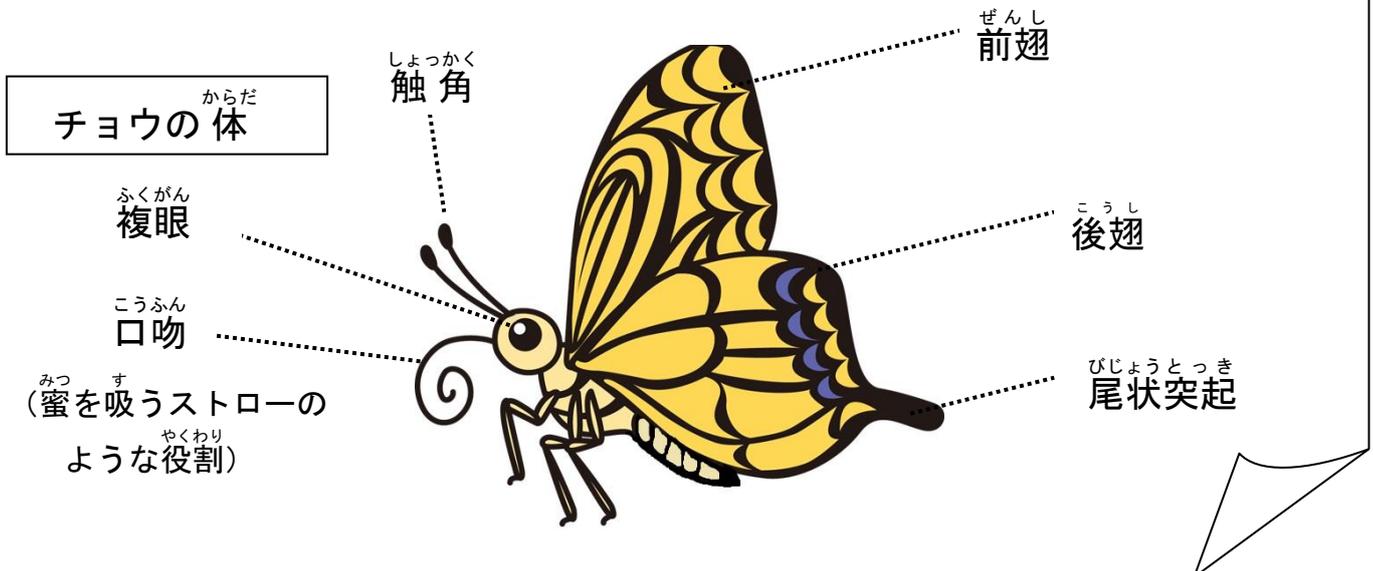
# けいちつ しょうそう はなし 啓蟄～ちょうと食草の話～

2017年3月5日は「啓蟄」です。「啓蟄」とは冬至や春分の日などと同じ二十四節気の一つで「虫たちが、冬籠りから目覚め活動をはじめるとい

いう意味です。つまり、もうすぐ春が訪れることを示しています。春になり、植物の新芽が出て花が咲き始めると、たくさんの昆虫が見られるようになります。今回はその中でちょうについての話題を取り上げます。

ちょうの仲間には世界に約2万種類いると言われています。日本ではそのうち約240種類を見ることができます。棲んでいる環境は森林や草原、湿地など種類によってさまざまです。ところで、ガはちょうに似ていますが、ほとんどの場合、触角の先端が細くなっているの

ので、見分けることができます。種類はガの方が圧倒的に多く、日本に生息するのは約6000種といわれています。



# チョウの種類と食草

チョウの幼虫（イモムシなど）は、植物の葉を食べるものがほとんどですが、どんな葉でもよいわけではなく、チョウの種類によって好んで食べる植物が決まっています。食草とは、主に昆虫の幼虫が食べる特定の植物のことをいい、観察したいチョウを探すときのヒントになります。



モンシロチョウ

食草：キャベツなどアブラナ科の植物



ナミアゲハ

食草：ミカン、カラタチなどミカン科の植物



ツマグロヒョウモン (♂)

食草：スミレやパンジーなどスミレ科の植物



アオスジアゲハ

食草：クスノキなどクスノキ科の植物



ルリシジミ

食草：ハギ、フジ、クズなどマメ科の植物



キアゲハ

食草：セリ、ニンジン、ミツバなどセリ科植物

